

出エジプト記 20 : 12

エフェソの信徒への手紙 6 : 1~4

「ふさわしい従順」(第五戒)

(ハイデルベルク信仰問答 十戒について 問 104)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 34 : 6~9

【讚美歌】24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】詩編 51 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】208 「主なる神よ、夜は去りぬ」

【祈祷】

【聖書】出エジプト記 20 : 12、エフェソの信徒への手紙 6 : 1~4

【説教】「ふさわしい従順」

<よくある教え？>

今日の『ハイデルベルク信仰問答』は、十戒の五つ目の戒め、「第五戒 あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる」というところです。

「あなたの父母を敬え」。これは、どこの国でも、どの文化でも、どの時代にも、よく聞く当たり前の教えのように思います。「敬う」とは、尊んで礼を尽くすこと。敬意を払うこと。尊敬することです。親を大切に。親孝行しなさい。確かに、とても大切なことです。

そして、素直にこの教えを聞けることは、幸いなことかも知れません。なぜなら、親との良い関係が与えられて、自然に感謝の気持ちを持つことができる方もいれば、親に対して、憎しみや怒りなどの複雑な感情を持っている方も、世の中にはたくさんおられるからです。

親子関係は、選ぶことのできない、しかも、人生で初めに与えられる、最も近い人間関係です。だからこそ困難も多く、心の傷を受けたなら、深刻になってしまうのかも知れません。

でも、聖書の「父母を敬え」の教えは、単なる一般的な、親孝行をしなさい、という教えではありません。第五戒は、「あなたの父母を敬え」のすぐ後に、約束が語られています。こうありました。「そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる」。

あなたの神、主が与えられる土地に、長く生きることができる。

主が与えられる土地とは、神さまがイスラエルの民を、エジプトの奴隷から救い出してくださり、そこから導き上げてくださる目的地であるところの「約束の地」のことです。

この約束の地は、神さまが、イスラエルの祖先であるアブラハムに、「地上のすべての氏族はすべて、あなたによって祝福に入る」との約束と共に、「あなたの子孫にこの土地を与える」と約束してくださった地のことです（創世記 12：1～7）。

第五戒は、父母を敬うことと、この神さまの約束の地に、長く生きることが、結び付けられています。つまり、この戒めは、単に親子の関係のことを言っているのではなくて、神さまの救いの約束、契約に関わる戒めである、ということなのです。

以前に、十戒は、二つの石板に書かれている、とお話したことがあります。

前半の第一戒から第四戒までは、わたしたちと神さまとの関係についての戒め。後半の第五戒から第十戒までは、わたしたちと隣人との関係についての戒め、とされています。

でも、この第五戒は、その前半と後半の真ん中であって、ちょうど神さまとの関係と、隣人との関係の両方に置かれている戒めである、とされます。

前半でわたしたちが、ただ神のみをまことの神とし、正しく礼拝することを教えられ、そこから後半の、わたしたちが共にどのように隣人と関わっていくべきかを教えられるには、まず、この「父母を敬え」という戒めを、通っていかなければならないのです。

<契約の共同体>

さて、このことを理解するために、まずは旧約聖書の時代に、十戒を与えられたイスラエルの民における親子関係のことを、知らなければなりません。

イスラエルの民とは、アブラハムの子孫たちです。だからイスラエルの民は、神さまが先祖であるアブラハムと結ばれた救いの契約を、受け継いでいく者たちです。イスラエルの民は、神さまとの契約による共同体だ、と言ってよいでしょう。

ですから、この契約共同体の中で生まれた子どもは、必然的に、この神さまの救いの契約を受け継ぐ者となります。一人の子どもが生まれる時は、その父母が契約の民であるゆえに、その子もまた、神さまの契約、神さまの救いに、あずかるのです。

神さまは、アブラハムに、子孫であるこのイスラエルの民を通して、地上のすべての人々を祝福すると、救いの約束をされました。

ですから親は、子に対して、契約を結んでくださる神さまが、この共同体をどのように選び、どのように救ってくださり、どのような約束をくださったか、ということをお教えます。親は、子を導いて、契約に基づく信仰を伝えていく務めがあるのです。

「父母を敬え」という戒めは、このことのゆえです。子どもにとって両親は、自分を神さまの契約の共同体の中に生まれさせ、神さまの救いと信仰を受け継がせてくれる存在です。

子どもが、この神さまの救いの出来事を受け止め、この神さまをまことの神として敬い、礼拝するのなら、当然、この信仰を伝えてくれた父母をも、敬うことになるでしょう。

さらに父母は、自分より先に、神さまが契約の相手とされた者たちです。アブラハムとの約束を、神さまはその子孫であるイスラエルの民にも、その父母に対しても、誠実に守ってこられました。そのように、神さまが、父母を重んじ、大切に契約の民として誠実を尽くし、守り、救い、導いておられるのに、どうして子が、その父母を軽んじて良いのでしょうか。

父母を敬うその態度は、父母を通して自分に信仰を与え、救いの契約の共同体に入れてくださった神さまを敬っていることの現れなのです。

だから、神さまの救いの契約を伝える父母や、さらに、それ以前に生まれた年配者たち、先立つ者たちは、大切に敬われ、重んじられるべきなのです。

ですから、子に対する親の権威というのは、ただ親だから、ということではなくて、子に神さまのことを教え、信仰を導く者であるからこそ、そこに親の権威があるのです。

でもそれは、その背後で、第五戒は、親に対しては、子にその責任を果たすことを求めているということです。敬われる親とは、契約を受け入れ、神さまを心から信頼し、礼拝し、ただ神にのみ従って生き、子に恵みを証しして、正しく信仰を導く者のことだからです。

<信仰を持たない父母は？>

では、今のわたしたちにとって、この第五戒は、どういう意味があるのでしょうか。

この中には、クリスチャンホームで、祖父母から、両親から、キリスト教の信仰を受け継いだ、という方もおられます。それは、とても幸いなことです。

その方の場合は、イスラエルの民と同じように、救われた共同体の中に生まれさせられたのであり、その時から選ばれて、親をはじめとする、信仰共同体の祈りと導きの中で、イエスさまを信じる信仰を与えられていったのです。

一方で、家も親戚もキリスト教とは無縁だったけれど、ある時、教会に招かれ、イエスさまと出会ったという、一代目のクリスチャンの方もおられます。

そういう方々にとっては、信仰を伝えてもらうことのなかった両親のことを、どう捉えたらよいのでしょうか。その場合は、この戒めは、関係ないことになるのでしょうか。

決して、そうではありません。

父母とは、わたしを世に生まれさせた存在です。根本的には、わたしたちを創造し、命を与え、世に生まれさせてくださるのは、神さまです。しかし、必ず、父母が用いられます。わたしたちには一人の例外もなく、必ず両親がいるのです。

一人の人間が世に生まれ、存在する、というのは、神さまのご計画です。神さまの創造の御業です。そのご計画、御業のために、神さまはわたしたちの両親を用いられました。

よい両親も、そうでない両親もあるかも知れません。それに、まことの神をまったく知らない、あるいは、他の神々を拝むような人々かも知れません。

それでも今ここに、イエスさまの救いを信じ、礼拝し、神さまと共に生きる一人のわたしが存在していることは確かです。神さまの共同体に入ったわたしがいることは事実です。

このことのために、神さまは救いのご計画の中で、この地上の、この時代に、わたしたちの両親を置かれ、用いられたのです。そのことのゆえに、やはりわたしたちは、神さまの御手の中に置かれている両親を、重んじるべきなのです。

わたしたちが父母を敬うとは、命の造り主である神さまの御手によって、両親を通してこの世に生まれた自分を受け入れる、ということでもあるでしょう。また、そのようにして与えられた自分の命を、存在を、人生を、神さまの祝福の内にあるものとして肯定し、喜んで生きる、ということに繋がるのではないのでしょうか。

<信仰によるアブラハムの子孫>

そして、神さまの救いのご計画によって、両親を通してこの世に生まれた、この一人のわたしは、イエスさまの十字架による罪の赦しを知らされ、信仰を与えられ、復活の約束にあずかりました。そして、神さまの契約の民の一員とされたのです。

…しかし、わたしたちは、もはやイスラエルの民のように、民族的な血筋によって、父母から契約を受け継いで、救いの共同体に入ったものではありません。

イスラエルの民と結ばれた神さまの契約は、神の御子イエスさまが、ご自分の十字架と復活の御業によって成就してくださいました。そして、イスラエルも、異邦人も関係なく、地上のすべての人に祝福を与える道を、拓いてくださいました。

ですから今や、この神さまの契約は、民族や血筋によってではなく、イエスさまを、神の御子、救い主であると信じる信仰によって受け継がれる、新しい契約となったのです。

イエスさまを信じた一人一人が、洗礼を受け、イエスさまに結ばれることによって、神さまの新しい契約に入り、信仰の共同体、教会へと招き入れられ、その一員とされるのです。

新約聖書のガラテヤの信徒への手紙というところに、こう書かれているところがあります。3章26～29節（新約346ページ）です。

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。」

わたしたちは、イエスさまの救いを信じる信仰によって、アブラハムの子孫となり、神さまの救いの民に加えられ、新しい契約として、祝福の約束を受け継いだのです。

このように、わたしたちは、両親を通して、命を与えられ、今ここに存在し、一人の人間として、イエスさまと出会い、救われ、祝福を差し出されました。そして、このイエスさまを信じる信仰を与えられて、罪の赦しと、永遠の命をいただく、神さまの祝福に、新しい契約に、あずかったのです。

この神さまの恵みのゆえにこそ、わたしたちは父母のことを、神さまの救いの御業の中で、大切に見つめ、敬っていくのです。

<愛と赦しのもとで>

しかし中には、それでも、どうしても親を敬うことができない、という方。深い傷を抱えて、親のことを、赦せない、愛せない、という方が、いらっしゃるかも知れません。

親子関係は、夫婦や友人関係などと違って、選ぶことができない関係です。それは生まれた時から置かれ、人生の根底に据えられる人間関係です。だからその分、最も困難が多い関係と言えるのかも知れません。だからこそ、最も深く傷を負わせたり、負わされたりする関係なのかも知れません。

最も身近な隣人を、赦すことができない。愛することができない。

この現実突き当たる時、わたしたちは傷ついた者でありながら、しかしまた、自分の、御言葉に従うことのできない、自分ではどうすることもできない罪に、気づかされます。

神さまがわたしに求めておられる、隣人を赦すこと、愛することの、恐ろしいほどの困難さに、直面するのです。

…しかし、そこにも。いや、そのようなところにこそ。神の御子イエスさまの、罪の赦しの十字架が立てられたのです。

わたしたちの、すべての罪を贖う十字架が、その苦しみと痛みの只中に、憎しみと怒りの只中に、立てられたのです。

この方が、すべてを受け止めてくださいます。わたしたちは、この方の前に、御言葉に従えないわたし自身も、自分を傷つけた者のことも、苦しみも、怒りも、戸惑いも、無力さも、すべてを差し出すしかありません。

でも、そうするなら、イエスさまは、このわたしの罪を、痛みを、傷を、すべて引き取って下さいます。このようなわたしをも、赦してください。このようなわたしをも、愛してください。

この方の十字架の許でこそ、わたしたちは傷を癒され、罪を赦され、御言葉に従う者となることを、やっと、祈り始めることができるのです。

今日の『ハイデルベルク信仰問答』問 104 では、こう語られていました。

「わたしがわたしの父や母、またすべてわたしの上に立てられた人々に、あらゆる敬意と愛と誠実とを示し、すべてのよい教えや懲らしめにはふさわしい従順をもって服従し、彼らの欠けをさえ忍耐すべきである、ということです。なぜなら、神は彼らの手を通して、わたしたちを治めようとなさるからです。」

パッと読むと、まるで、何があっても父母を敬え。何でも耐え忍んで服従しろ、と言われてるように聞こえるかも知れません。

でも、そもそも「敬う」というのは、奴隷のように従うことではありません。また、自分の心を殺して、大切にしている振りをすることでもありません。「敬う」とは、心からの敬意をもって、愛をもって、誠実に相手に接することです。

そして、そのようにしなさい、と言われる理由は、「神は彼らの手を通して、わたしたちを治めようとなさるから」。つまり、神さまは、父母の手を通して、わたしに命を与え、生かし、育て、そして救いへと導かれたからなのです。

わたしたちが見つめるべきは、やはり神さまのお働きなのです。見つめるべきは、神さまのご計画と、救いの御業の中に置かれたものとしての、親子の関係、縦の関係なのです。

わたしたちには、まず、神さまの愛と憐みの御心を、そして、このわたしにも救いを実現してくださった、誠実な神さまを、示されています。

わたしたちは、この神さまのものとされている。この神さまの、ご計画のもとにいる。その中で、親も、子も、罪や、欠けや、破れを抱えつつ、しかし、それらをイエスさまの十字架で覆われつつ、共に祝福へ導かれているということ、覚えたいと思うのです。

<家族に及ぶ恵み>

ところで、そのようなことを思う時、中には、信仰を持たずに召された父母や、祖父母、先祖などの、先立つ人々のことを思う方がいるかも知れません。

でも、先に召された方たちのことについては、わたしたちは何も分かりません。すべて、神さまの御手にお委ねするしかないのです。

しかし、今ここにいるわたしを救ってくださった神さまが、このわたしを存在せしめ、生かし、救うために与えてくださった先立つ者たちを、お見捨てになるとは思えません。

このわたしを救ってくださった、神さまの広く、深く、大きな愛の御手が、先に召された方の上にも置かれていることを、わたしたちは信じて、祈ってよいと思うのです。

一方で、今なお、地上の歩みにあって、まだ信仰を持っていない父母や、家族がいるならば。神さまが、先に救われたわたしたちを通して、その方たちを御自分の許へ導こうとしておられることは明らかです。わたしたち、一人一人に注がれている、溢れるほどの救いの恵みが、家族へと流れ出さないはずがありません。

先に救われた者は、まだ信仰を持たない、その父母のために、あるいは子のために、神さまの恵みを証しし、執り成し祈る務めを与えています。

そのように、父母の祝福を、心から神さまに祈ることこそ、まず父母を重んじることであり、また子の信仰のために祈ることは、父母の責任ある務めです。

神さまが、両親を通して、わたしをお造りになり、そして救ってくださったように。神さまはまた、わたしたち一人一人を用いて、わたしたちの最も近い隣人を、家族を、救おうとしておられるのです。

<幸福になる>

さて、今日読まれたエフェソの信徒への手紙 6 : 2~3 には、こうありました。

『父と母を敬いなさい。』これは約束を伴う最初の掟です。『そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる』という約束です。』

長く生きるとは、イスラエルの時代においては、神さまの祝福のしるしでした。

もちろん、ご長寿がそのまま祝福であり、幸福だ、ということではないでしょう。

「あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる」というのは、与えられた人生を、神さまと共にある幸いの中で、いつまでも祝福されて歩むことが出来る、ということです。

「父と母を敬う」ということは、この祝福に繋がっている、ということです。

神さまが、わたしのために与えてくださった父母です。今、わたしが、わたしとして存在し、ここにいること。そして、イエスさまの救いにあずかり、今、神の子として、祝福されて、ここにいること。

父母の存在を見つめることは、この神さまの、わたしに対する救いのご計画を見つめることになります。

そして、わたしたちは、「地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る」との約束を、イエスさまによる新しい契約によって、受け継いだ者とされました。

わたしたちは、確かに祝福を受け、神さまと共に生きる幸いに与りました。でもこれは、さらに、地上のすべての人に与えられている約束でもあるのです。

神さまは、この新しい契約の共同体から、この共同体に属する、わたしたち一人一人から、さらに、救いのご計画を前進させ、愛と赦しのご支配をこの地上に広げ、すべての者を祝福しようとしておられます。

「父母を敬え」。わたしたちは、この神さまの大きなご計画を、神さまから与えられた最も身近な人間関係を重んじるどころから見つめ、祈ることから、始めていきたいのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたの計り知れない救いのご計画を覚えます。

あなたが父母を通して、わたしたちに働かれ、一人一人に命を与え、御許に招いてくださったこと。そして、信仰を与え、イエスさまによる救いを与え、新しい契約を結んで下さり、すべての祝福を受け継ぐ者としてくださったことを、感謝いたします。

しかしこの祝福の中にあってもなお、わたしたちは、親も子も、欠けのある、弱い、罪深い者です。どうか、あなたの愛と赦しの中で、祝福の中で、ふさわしい関係を築いていくことが出来ますように。

そして、わたしたちが、そのことを通して、あなたの救いのご計画に仕え、あなたの愛と赦しのご支配が、わたしたちの間に実現していきますようにと、祈り願います。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 505 「歩ませてください」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讃美歌】 78 「わが主よ、ここに集い」

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 29 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン